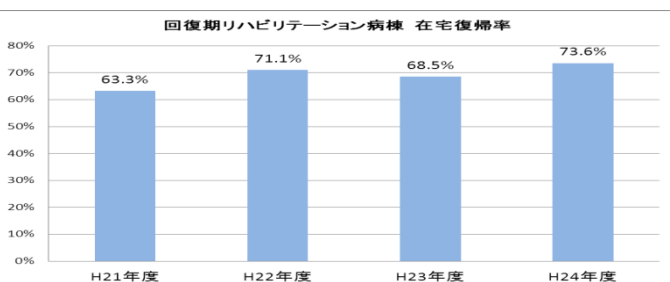
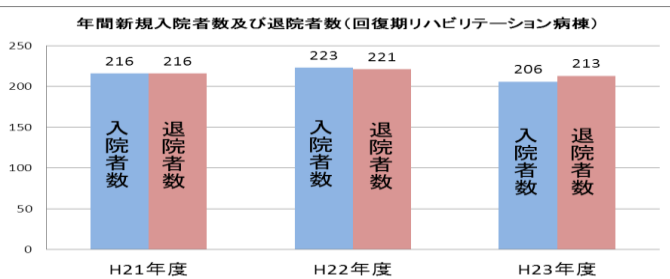




回復期リハビリテーション病棟 入院料 1 を取得して

昨年の医療費改定により、回復期リハビリテーション病棟の「質の評価」が、それまでの2区分から3区分に変更されました。これにより、より充実した体制、より医学的処置の必要のある患者や重症な患者を受け入れ、状態改善や在宅復帰を十分に行っている場合の評価が新設されました。もっとも厳しい条件が「(新) 回復期リハビリテーション病棟入院料 1.」という区分ですが、当院はこの1月、県下で初めてこの基準の届け出を行い、受理されました。基準による違いは、「在宅復帰率=退院先が自宅の割合」が60%から70%に条件が変更され、「新規重症者割合=1ヶ月の入院に占める重症者の割合」が15%から30%に条件が変わる事等があります。これは、多くの重症の方を受け入れ、リハビリテーションによりたくさんの方が自宅に帰ることができる様に病院スタッフが支援する病棟基準といえます。琵琶湖中央病院リハビリ療法部は、理学療法士41名・作業療法士34名・言語聴覚士8名による体制を整えてきました。たくさんの方が自宅に帰ることができる回復期リハビリ病棟の役割を踏まえ、多くの専門スタッフが「リハビリ療法」を実践したいと考えています。 リハビリ療法部 田中 隆司



病院周辺の 名所旧跡

その1



病院が建つ、ここ膳所は歴史の街です。病院から半径50メートルの範囲だけでも、名所旧跡がありますのでご紹介したいと思います。

まず1つ目は、病院北側にある国の重要文化財である蘆花浅水荘です。

ここは明治から昭和初期に活躍した日本画の大家山元春挙の別荘でした。近江富士(三上山)と琵琶湖を借景にした画家らしい絵画風の庭が美しく、当時庭は琵琶湖まで続き、船着き場もあったとのこと。

2つ目は膳所焼き美術館です。膳所焼きは膳所藩の御庭焼で小堀遠州が指導し「遠州七窯」にあげられる名窯です。茶道具に名品多く、当時は大名への贈答品として重宝されていましたが、長くは続かず廃窯となっていました。大正8年、地元の岩崎氏が膳所焼きの廃絶を惜しみ、友達であった春挙の協力を得て再興しました。膳所焼き美術館は、岩崎家が所有してきた江戸時代以来の古膳所焼及び滋賀県の古陶磁、茶道具類を一般に公開することを目的として設立されたものです。次回は、粟津神社、本多神社を紹介したいと思います。

検査室 西山 里美

市民のための

『寝たきり予防講座』

大津市医師会主催の『寝たきり予防講座』が開催されます。当院の神経内科 片山医師を講師として派遣します。

日時：平成 25 年 2 月 23 日(土) 午後 2 時～

会場：晴嵐市民センター

テーマ：「 脳卒中のお薬の話 」